

第 18 回 日本抗加齢医学会総会 ランチョンセミナー 23

日時：2018年 **5月27日(日)** **12:20～13:10**

会場：第8会場(大阪国際会議場 10F 会議室 1008)



座長 太田 博明 先生

(日本抗加齢医学会理事 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長)



演題 女性泌尿器科医が本当に伝えたい
女性性器と GSM のこと

～加齢による辛い性器尿路症状を華麗に改善～

演者 二宮 典子 先生

(女性医療クリニック LUNA 心齋橋 院長 / 大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学) 香川医大卒。大阪市立大学医学部泌尿器科入局。泌尿器科専門医。女性の排尿トラブルのニーズに答えるべく女性泌尿器科・骨盤底疾患について研鑽。女性の全身のさまざまなトラブルに対応するために東洋医学の研究も行っている。

関口 由紀 先生 (LUNA 骨盤底トータルサポートクリニック 理事長)

仲谷 達也 先生 (大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学 教授)

GSM(Genitourinary Syndrome of Menopause)とは、閉経後の女性における女性ホルモン分泌低下に始まる、様々な症状のことを言います。以前までこのような変化は萎縮性外陰・膣炎として扱われ、単なる年齢変化であり、積極的な治療対象とはみなされていませんでした。しかし、エストロゲン分泌低下は、膣・外陰部上皮の菲薄化・乾燥・感染・伸縮性低下・常在菌変化・血流低下・膣 pH 上昇・膣管の狭小化、さらに小陰唇の萎縮や大陰唇の皮下組織の萎縮などを引き起こすことがわかっています。よって、GSM 症状は外陰部の乾燥感や灼熱感に始まり、頻尿や排尿困難、繰り返す膀胱炎などの泌尿器科領域や性交時痛や性交後出血・性的満足の低下など性機能の問題にまで及ぶのです。そして、不幸なことに、それらの症状は慢性・進行性で放置しても改善することはありません。報告では中高年女性の、実に半数以上がこれらの症状に悩まされていることが判明しました。

こういった背景をうけて、近年では GSM 治療の選択肢が増加しています。海外では女性ホルモンの局所・全身治療を始め、選択的エストロゲン受容体モジュレーターや DHEA (Dehydroepiandrosterone) も有効であり、世界中のたくさんの女性が苦しい現状から脱却しようとしています。しかし、上記の薬剤はほとんどが日本未承認のものばかりで、日本における GSM 治療は未熟と言わざるを得ません。それは、治療選択肢の少なさだけでなく、治療をする側にも問題があると考えます。婦人科医・泌尿器科医・皮膚科医など当該領域の診療を見る機会のある医師でさえ、GSM や女性性器について十分な知識がないからです。

講演では、女性性器の特徴と GSM の症状や診察のポイントから、モノリザタッチを含む日本で可能な GSM 治療についてお話させていただきます。

ランチョンセミナーは整理券制になりますので、予めご了承ください。

共催：第 18 回日本抗加齢医学会総会 / DKSH ジャパン株式会社

東京都港区三田 3-4-19 TEL:03-5730-7670



The Code of Excellence